

色名使用実態の特徴(1)

Characteristics of Japanese Color Names in Daily Use (1)

近江源太郎 女子美術大学
 李 相明 女子美術大学美術研究科
 菅原 奈美 //

Gentarow Ohmi
 Sangmyung Lee
 Nami Sugawara

1. はじめに

日常生活のなかで色名がどのように用いられているか、その実態を知るための接近法はいくつかある。色見本を示して色名を回答させる方法、想起する色名を列挙させる方法、文献資料たとえば文学作品に使用されている色名を抽出する方法、等。そしてその結果は、一方では日本語ひいては文化の特徴を知る手がかりになるし、他方では色覚研究における色名法のように生理的特徴にもつながる可能性を持つ。

ここでは、再生法によって現代日本人の色名使用の実態の特徴をとらえる。

2. 方法

約10分間で想起する色名を回答用紙に記入させた。なお、この時間はほぼ全員が回答を放棄したと見受けられた時間である。調査は集団法で、4グループに分かれて、1996年夏から秋にかけて行った。被験者は18才から72才までの日本人男女 210名。

3. 結果と考察

結果の整理にあたっては、極力記入された回答を尊重したが、著しく近似したものは同一カテゴリーにまとめた。

色名ごとの頻度を求めたが、おもな特徴は次のとおり。

(1) 回答数。回答数の最大値は63、最小値は11、平均値は34.9であった。年齢別にみると、加齢とともに再生数が減少する傾向が認

められた。しかし、これをそのまま各年齢の

表1. 色名再生調査結果 (年齢別)

順位	基本色彩語	再生率 (%)			
		合計	~39	~59	60~
1	赤	92.0	89.4	96.2	91.3
2	紫	91.0	88.2	91.1	95.7
3	黒	90.0	81.2	96.2	95.7
3	茶	90.0	91.8	91.1	84.8
5	黄	89.0	88.2	91.1	87.0
6	白	88.6	82.4	94.9	89.1
7	緑	85.2	87.1	88.6	76.1
8	青	84.3	85.9	87.3	76.1
9	黄緑	80.5	91.8	77.2	65.2
10	ピンク	72.9	74.1	77.2	63.0
11	オレンジ	71.0	70.6	79.7	56.5
12	紺	70.5	67.1	68.4	80.4
13	赤紫	65.7	74.1	67.1	47.8
14	灰色	61.9	63.5	59.5	63.0
15	橙	61.4	47.1	72.2	69.6
16	水色	58.6	71.8	55.7	39.1
17	金	58.1	67.1	50.6	54.3
18	銀	56.7	64.7	50.6	52.2
19	黄土	51.9	67.1	45.6	34.8
20	焦茶	51.0	58.8	51.9	34.8
21	肌色	48.6	55.3	51.9	30.4
22	青紫	44.8	60.0	40.5	23.9
23	ベージュ	44.3	29.4	64.6	37.0
24	グレー	43.8	42.4	49.4	37.0
25	青緑	37.6	50.6	34.2	19.6
26	藍	36.7	34.1	40.5	34.8
27	空色	36.2	21.2	43.0	52.2
28	クリーム	34.8	32.9	35.4	37.0
29	レモン	34.3	49.4	26.6	19.6
29	桃色	34.3	29.4	40.5	32.6
30	群青	33.3	36.5	35.4	23.9
30	赤緑	33.3	27.1	41.8	30.4

色名語彙数とみなすことは危険かも知れない。加齢による記憶再生能力の低下の影響も否定できない。

(2) 外来色名。一般にカタカナで表記される欧米からの外来色名は、約30%であった。これは、JIS Z8102-1985の38%よりは少ないが、現代雑誌90種を対象とした調査での外来語使用率約20%という結果に比べれば多い。また年齢別にみると、40才未満とそれ以後との間に段差があり、前者では40%弱が外来色名をあげている。

(3) 頻度の最も高かったのは「赤」の92.4%で、以下「紫」「茶」「黒」「黄」「白」「緑」「青」の順で続く。

(4) 主な48色名について、数量化Ⅲ類によって解析すると、次の傾向がみられた。

(4-1) 第1軸では、一方の極に「ブラック、ホワイト、レッド、ブラウン」、他方の

極に「茜、灰、青、群青」が位置する。これを回答者属性でみると前者にやや若年齢層が多いものの、性、年齢、回答数との顕著な関係は認めがたい。むしろ単純に、外来色名を中心に再生する者と、伝統色名を中心に再生する者との差とみなすべきであろう。これは、あるいは再生・連想事態での心理機制的反映かも知れない。

(4-2) 第2軸と第3軸とは、図1、図2のように年齢、性および回答数に規定されている。高年齢層は「紅、茜、鼠、空色」が多く、若年齢層では「青緑、青紫、赤紫」など中間色相名と外来色名が多い。

以上のように色名再生にはかなりの個人差が認められ、外来色名と伝統色名とのバランスにそれが顕著に現れ、その規定要因としては年齢について性が大きな影響をもつ。

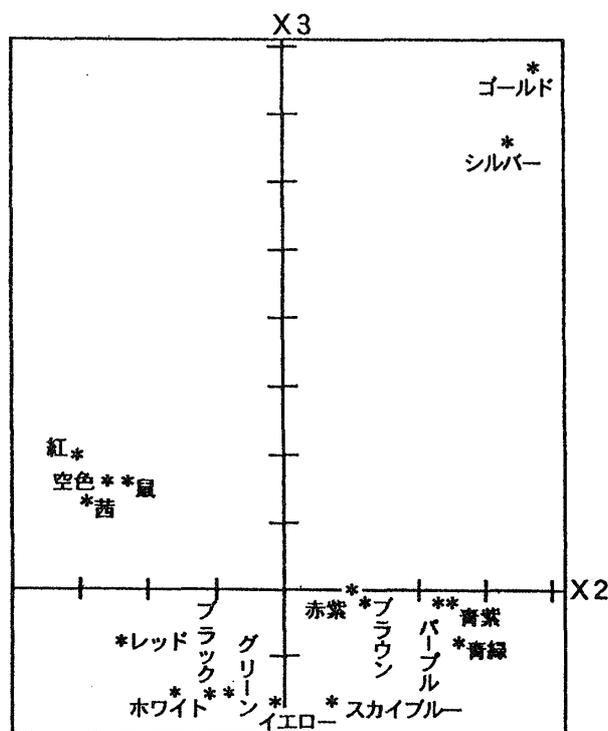


図1. 数量化Ⅲ類による色名再生パターン

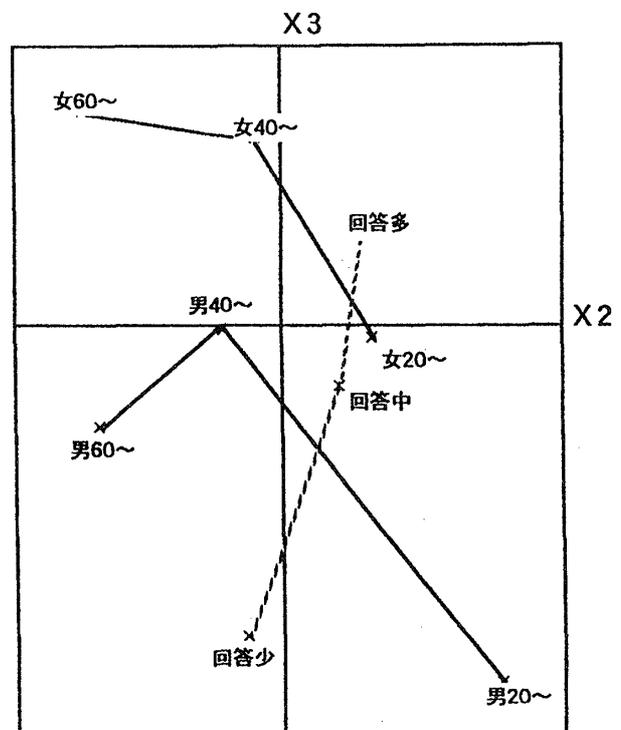


図2. 数量化Ⅲ類による被調査者属性の位置